

1. 近代家族の成立

近代家族は以下の7つの特徴がある。時期的には明治期から1970年代にかけて成立した。

- (1) () 領域と () 領域の分離。
- (2) 家族成員間の強い () 的關係。
- (3) () 中心主義。
- (4) () は公共領域、() は家内領域という () 分業。
- (5) 家族の () 性の強化。
- (6) () の衰退と () の成立。
- (7) 非 () の排除。

2. 現代家族の特徴

現代家族の特徴として以下の点があげられる。

- (1) () 婚化。
- (2) () 率の低下。
- (3) () 婚、() 婚の増加。
- (4) 夫婦2人に子ども2人という () 世帯は () 割未満。つまり () 世帯、() 世帯、() のいない夫婦、再婚の連れ子などの増加。
- (5) 加えて家族は () 化している。() ・ () も一人一台となっている。家庭内での () よりも () 実現が優先され、家族は消費の単位となっている感がある。
- (6) また () や () 虐待も増加している。

3. 現代家族の2つの重要な機能

では家族は弱体化したのか？しかし残っている機能もある。以下の2点はむしろ強化されているともいえる。

- (1) ひとつは () 的交流機能である。子どもの () の発達、() 形成の基盤となる。ここで注意しなければならないのは育児の () 化である。育児の () 化は、育児を () によって他人に任せることである。
- (2) 育児の外部化は、() 教育を無視して () 教育に追い込む可能

性がある。

(3) 育児は外部化ではなく () 化でなくてはならない。育児の () 化とは、子どもが親自身の子であると同時に () の子であるという認識を持つことである。

(4) 2点目は、家族は大人にとって () の場である、ということである。個人の生活にリズムを与えて () 生活から離脱し、() 安定と社会の () 視をさせる。

4. 家父長制について

(1) 家父長制とは、() 道徳を基本とする。() 孝行や夫唱 () 、() の序、男尊 () などが重んじられた。

家族の役割関係は () と服従という家制度における関係であった。

(2) その後、日本は明治維新を迎え建前上は () 平等となった。しかし () 的な倫理を美徳とする価値観は長くのこった。

5. 核家族による変化

(1) 家族存在の時間性は、世代 () 性から自己 () 性へと変化した。

(2) また結婚時の居住に関して、() 方居住性から () 的な新居住性へと変化した。

(3) 親族結合における () 系性から () 系性へと変化した。

(4) 家族内の人間関係は家父長的観念から () 主義的観念へと移っていった。ただし、この () 主義は、() 己主義であってはならず、また () 立主義であってはならない。個人の () と () の平等が重要である。

6. 男女関係・夫婦関係の変化

(1) 家族における男女関係・夫婦関係は男性が中心 () 的であり、女性は補助 () 的なものであった。

(2) また性役割の分業観は、かつては説得力があった。なぜなら男性は筋力があるので () へ、女性は () ・出産・ () を担当するほうが効率的であったからである。

(3) しかし、現在男女間における仕事の能力の差は、ほとんどない。ではなぜ「男は仕事、女は家庭」なのであろうか。これは () 的、() 的に規定されたものでこれを「ジェンダー」と呼ぶ。